

ブラジル金融政策（2026年4月）

2会合連続となる0.25%ptの慎重な利下げ

2026年4月30日

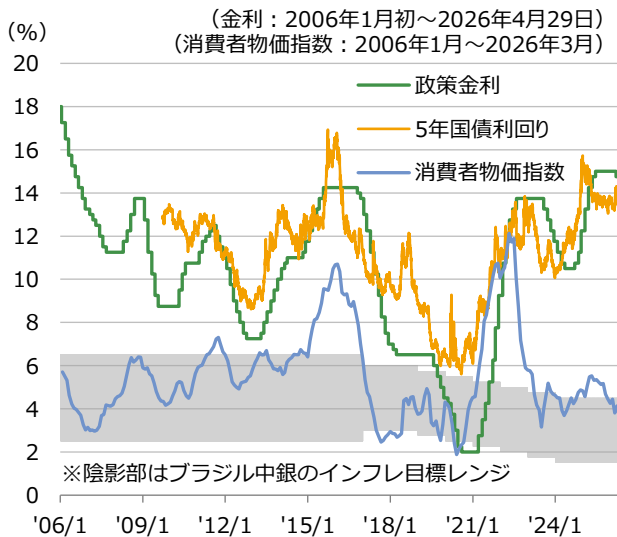
金融政策の方向性は利下げだが、そのペースは引き続き中東情勢次第

ブラジル中央銀行は4月28～29日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を14.75%から14.50%に引き下げることを選定しました。利下げは2会合連続です。

中東情勢の緊迫化による原油高で短期的なインフレ懸念は強まっていますが、政策金利は依然として十分に引き締めの水準にあることから、利下げを慎重に進めることが可能と判断したようです。声明文では、「政策金利を引き締めの水準で長期にわたり維持したことで、金融政策が景気減速に波及していることを示す証拠を得た。新たな情報を踏まえて政策金利を調整するペースや期間を見直した結果、インフレ率の目標への収束を確保するための環境が整ったと判断し、利下げを進めることが適切だとみなした」と説明されています。今後の方針に関しては、前回と同じく「今後の政策金利の調整は、中東における紛争の深刻度や長期化の度合い、およびそれらがインフレに及ぼす直接的・間接的な影響に関する新たな情報を反映させる」としており、引き続き当面の利下げペースは流動的なことを示唆しています。

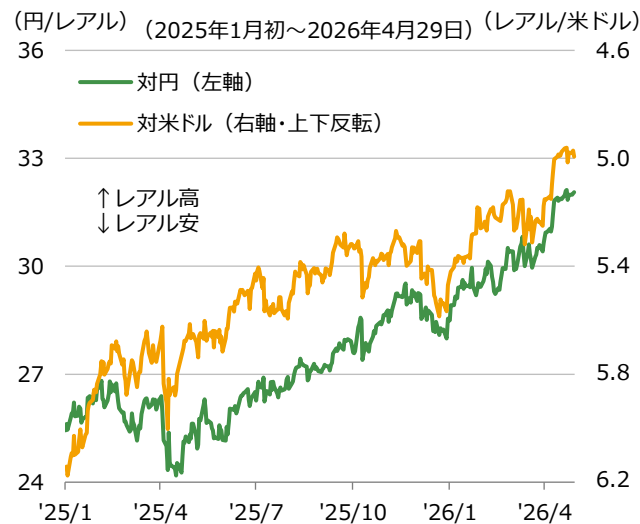
ブラジル・リアルは、中東情勢の緊迫化でリスク回避姿勢が強まる中でも底堅く推移し、4月には節目の5レアル/米ドルを割れるまでレアル高が進行しました。原油価格の高止まりは産油国であるブラジルの大幅な貿易黒字を定着させる要因となり、慎重な利下げは高金利の魅力を維持しつつ債券高・株高への期待も抱かせるため、これらは引き続きレアルの追い風になると期待されます。（執筆：調査部 岩手幸久）

ブラジルの金利とインフレ率



※消費者物価指数は前年同月比、5年国債利回りは2009年9月21日～
(出所) ブルームバーグ、ブラジル地理統計院、ブラジル中央銀行

ブラジル・レアルの対円・対米ドルレート



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。